

---

# 一生届くことのない手紙

林辰子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一生届くことのない手紙

### 【Nコード】

N0812BA

### 【作者名】

林辰子

### 【あらすじ】

T・Mへ。

私は君をずっと好きだ。

君は私が好きって知ってるのに、嫌ならそう言ってほしかった。私のせいだって言ってほしかった。

優しいところが嫌いだ

でも、絶対に嫌いになることなんて出来ないよ

ずっとあなたが好きでした。

これからも多分、ずっと好きです。

E・Mより。

## ブログとして手紙を書きます（前書き）

最高に痛い恋愛小説を書きたいと思って実行しました。

読んで痛い、書いていても痛い、嘲笑してしまうような話になりそうですね。

時々現実の話、時々手紙の内容って形で書いていききたいと思います。  
初心者故、ご容赦下さいませ^^；

ブログとして手紙を書きます

知ってますか

知ってますよね

好きなんです

始めて見たときは、別に何とも思わなかった

でも、今は君無しじゃ生きていけないんだ

ごめん、ほんとにごめん、好きになって

何で好きかって聞かれたら、上手く答えることが出来ないけど

ほんとうに  
好きなんだ

もう君には、私の思いを伝えることが出来ないみたいだから

せめて

手紙を書かせてください

世界で一番大好きです

命をかけられるかといったら、はっきり言ってそこまではだめだ。

でも、君を超える人が現れることは無いでしょう

君は星だ

夜空に輝く北極星のように、私の胸の中で輝きつづけるの

北極星は星よりも輝いてほかのどの星よりも遠くにあるんだよ

ね、まるで君のようじゃないか

私は君を自分以外の何かの中でとても大事に思ってる

でも君は???

これは、一生届くことのない手紙です

ただ、一生変わらないのは  
ずっと大好きだったこと





## 過去の話（前書き）

非常にわかりにくいと思います。  
勢い任せでかきました。

## 過去の話

過去の話を見せてください。

私は、T・Mが好きです。

8月まで、T・Mの顔を知りませんでした。

11月まで、T・Mの苗字を知りませんでした。

気になりだしたのは12月です。

はつきり記憶にはありませんが、T・Mを見ているとなんだかドキドキしたんです。

以下、Tとしましょう。

私は、それまでSという男が好きでした。

Sは同じクラスでした。

しかし、夏休み

Sは部活のため、一回も学校の夏季講座に来ませんでした。

Sに会うためだけに学校に来ていた私にとって、Sと会うことで

きない一ヶ月間は辛いものでした。

一ヶ月会えなかったら、急激に好きだという気持ちが無くなりましてた。

こんなものかって思いました。

Sは初恋の人でした。

ずっと好きだ

この気持ちがなくなることはないはずだった

永遠なんてないのか。

でも、私はSをまだ好きだということにしました。  
好きじゃないと認めたら、何か本当に大切なものを失う気がしたからです。

Sとは話したことが無いし、同じクラスだということ以外、共通点がありません。

出身校も知りません。

そのままずるずると12月になりました。

12月某日

目の前に、Tが現れました。

Tは、他クラスでしたが、同じ部活でした。  
バドミントン部でした。

長身で痩せた、地味な男でした。

目が小さく、一言で表すなら日本犬のような顔をしていました。

Tは、部の男子の高校始めの中で一番強かったため、女子のトップと戦わされることになりました。

女子のトップとほぼ互角だった気がします。

その時の私はなにかも空っぽで、Tのことをよく見ていませんでした。

部の他の女子は、何かしら騒いでいたような気もしました。

部活が終わって、試合を記録するノートを見ました。

Tとトップの試合

名前は書かれているが、点差と勝敗が書かれていない。

まあいいか

その時はその程度のものでした。

結局、もやもやしたままに年が明けました。

1月

私は、疲労骨折をしました。そのせいで、一年生大会に出られなくなりました。

ダブルス大会でした。

女子部員が11人しかいなかったので、ちょうどよかったのかも知れませんが。

女子は、すぐに全組負けました。

私は、自分の出る試合ではないからと、あまり真面目に大会を見ていなかったと思います。

Tは準々決勝まで勝ち残っていました。

Tは、中学時代には県大会で表彰されるような実力のAと組まされていました。

まあ、Aが強いから勝っているんだろう。

その程度にしか思いませんでした。自分の学校で残っているのがその二人だけだったので、応援に行きました。

私はTをあなどっていた。

Aが強いからじゃない。

Tも強いから勝ち残っているんだ。

Tの動きは、Aにも負けないようなもので、中学時代も競技を経験してきたことを想像させました。

小学生の、  
足が速いから好き  
というのと対して変わらないと思います。  
でも、それまで引きずられていたSはどこかへ消えました。  
私の中には、感動と尊敬と憧れと、とにかくTに対する好意があふ  
れました。

TとAペアは準々決勝を勝ちました。

準決勝、T以外は全員中学時代競技経験者でした。

#### 一セット目

五点差をつけられ、相手側にセットを取られました。

#### 二セット目

十点差という厳しい状況、相手はすでにマッチポイント  
誰もが負けると思いました。

しかし、鮮やかにそれをひっくり返したのです。  
まるで映画のように！！  
ついには、セットを取りかえしてしまいました。

会場が、学校が一つになりました。

ファイナルセット、競りに競って、彼らは取りました。

歓喜に湧きました。

決勝まで進んだのです、未経験者が。  
私には、すごいということしかわかりませんでした。

決勝は、市長杯優勝のペアが相手でした。

AとTは健闘しました。

私たちも、必死で応援しました。

しかし結果は、

一セット目

2 1 1 7

二セット目

2 1 1 9

で二人は負けました。

私は本気でショックでした。しかし、感動は計り知れなかった。

興奮して、心臓の鼓動が早まったから、それを勘違いしただけなの



かも知れない。

でも、私はその日丁を大好きになりました。

年明けに手紙を書いてはまずいでしょうか。(前書き)

「私」が語りかける形です。現在の私。

重くて痛々しい女です。

年明けに手紙を書いてはまずいでしょうか。

あけましておめでとう

去年の今頃なら出来なかった、「あけおメール」  
出来て嬉しいです。

自分の電話帳に入っている人達にはだいたい送るんだけど、君のは  
特別なんだよ

……でも、嫌な思いさせたくないから、みんなにも同じのを送って  
いるんだよみたいにしちゃった

「あけましておめでとうございます  
昨年度は皆さんのおかげで、大変密度の濃い一年とすることが出来  
ました。

今年もとてつもなく良い一年となりますように  
今年度もよろしく願います  
では」

密度の濃い一年でした…

分かってるよね??

無かったことになんてしないでほしい

お願い、忘れないでください。

君からの返信

来ないほうが良かったな

来なかったら来ないで、それはそれで傷つくんだけど  
来たら、もっと傷つくから

君は返してくれた

見るのにどれだけ勇気がいるか

君以外の全員のメールを全部見る

それから見ようって思っても見られない

…… やつと見れた

「あけましておめでとう」

それだけ

はつきりいつて、何が返ってくるかは分かってるよでも、無理してるんじゃないかな。  
本当は嫌だとか、面倒だとか思ってるんじゃないかな。

最初は、私のこと少しは好きだったんでしょ???

「今年もよろしく」

って入れてほしかったな

今年はまだ、私と関わりたくないですか。

勝手に傷ついているのは私だけど、でも、こんなにさせたのは君なんだよ。

自覚無いよね

少しでもいい

本当にちょっとだけでいいから

振り向いてください

あなたの優しいところが大好きです

……ごめんね、好きになって。

## 過去の話の続き（前書き）

過去の話の続きです。

長いです。

あと、話し言葉が統一されていないと思います^^；



## 過去の話の続き

というわけで、私はTを好きになったわけです。

確信は持てませんでした。

Tを見てるとドキドキしてしまって、  
すぐに目を違うところへ、Tが映らないところへいってしまつんです。

でも、またTを見ている

それがエンドレスに繰り返されるわけです。

どこかへ吹っ飛んでしまったSには無かった感覚でした。

AとTが戻ってきました。私たち、同じ学校全員が二人の健闘を讃えました。

素晴らしかった。本当にすごかった。お疲れ様。

… かつこよかった。

同じ部活の女子Rが、AとTに何か渡しました。

私が偶然、Tを見たときにRは渡したのです。

飴でした。

今までの私なら何も思わなかったでしょう。

でもその時の私には堪えられなかった。

どこからか分からないが、激しい憎悪が湧いて来る。

何、これは

何でこんなに腹がたつの

何でこんなに悲しいの

何でこんなに辛いもの

始めて味わった感情

ああ、これが嫉妬か。

Rは言いました。

Aくんがすごいのは知ってた。でもTくんはすごい。  
Tくんはもつとすごい。

AくんとTくんは頑張ったから飴あげたの。  
仲良くなりたい。メアド聞かなきゃ。

私は、なんとしてでもRを阻止しなければならない気がしました。  
なぜかは分からない。

でも、RにTをやるくらいなら、私が欲しい

そうはつきり思いました。

しかし、Rの

AとTは頑張ったから

というのは納得がいきませんでした。

他の人達は頑張っていないのか??入賞しなければ頑張ったうちに入らないのか??

おそらく、私が疲労骨折をした原因の張本人

そして、それを目の前で放置し、おおごとにさせた張本人がRだったので、ここまで思ったのでしょう。

私は間違いなくRが嫌いでした。

Tが好きだったのも事実でしたが。

だからTを渡したくなかった、Rと馴れ合ってほしくなかったのもあると思います。

勝手な意地を張りました。

次の日から、Tは部内のヒーローでした。

周りの目が変わった、といえば正しいでしょう。

すぐに元に戻るだろう、と思いました。

でも、Rはなかなか止まらない。

私は密かに苛立っていました。

Rの口が、Tの名前を発音する形になると、激しく憎悪する憤怒する

勝手に一度も話したことのないTのイメージを作り上げ、Tを自分の物にしたいと思っていました。

渡さない、誰にも

渡しはしない

遂に、私は一人でこの思いを抱えきれなくなりました。

TとAが準優勝して進んだ上の大会を見に行った帰り、告げました

唯一、部活の良心と言えるNに。

私、Tくんが好きなんだ。

Nは、驚きました。

そして、

私がRに対して抱いている不安、試合で活躍したから好きだって思われたくない。活躍すれば誰でもいいわけではない。

思っていたことをNに告げました。

Nは、私に笑いかけてくれました。

そうなんだ。

知らなかったよ。

でもねー、Rはあれはすぐに黙るよ。一時の感情だから。大丈夫だよ、あんたかわいいから！！

でもTくんかー。Tくんねー、謎だよねー。

こそばゆい気持ちでした。

Nは、協力すると言ってくれました。

私は、とてもうれしかったです。

Tの話をできる他人がいる。

Tの事を考えるだけで、私は舞い上がってしまう

Tの事を話したら  
どうなってしまうんだろう。

私は、Tにベタ惚れしていました。

会えないときは、どうすればいいですか。(前書き)

ここまでくると重症ですね。

鉛並に重い女。



会えないときは、どうすればいいですか。

年が明けても、会わないまま十日近く経ちます。

元気ですか??

メールは、きつと君に嫌な思いをさせてしまうので、送れません。

ねえ、少しは我慢が出来るようになったでしょう??

去年の私なら、きつとたくさんメールしてた

会えないときは、どうすれば空っぽな心が満たされるのでしょうか。

君は私の事を考えているのかな。

きつと、私と君の思いには、相当なギャップがある。

それはやっぱり当たり前で、怖いからどうしても目を反らしてしまう事なんだけど

私は、君の事ばかり考えちゃうよ

会えなければ会えないほど

その時間が長いほど

辛くなってしまうの

君に会っても、満たされることはありえないんだけど

会えなかったら

もつともつと

満たされることは絶対にありえない

私の人生の中で、君の存在は欠かすことが出来なくなってしまった

んだよ

あーあ

こんなことなら

出会わなきゃ良かったのかなー

違う学校を選んでれば良かったのかなー

違う部活を選んでいれば良かったのかなー

でも、君に出会わなかった人生なんて

死んでもいい

知ってると思っけど言わせて

愛してるよ

誰よりも、ずっと

会いたいです。

あと、答えて欲しいです

……やっぱり駄目？

未練がましい女はダメですか。(前書き)

タイトル通り^^;

私自身は、未練がましい女はダメだと思います

未練がましい女はダメですか。

8月20日

私は君から来たメールを全て消した

私から送ったメールも全て消した

君のメールアドレス

.....

手が画面の前で止まった

.....

実際、君から来たメールを消すことは、  
容易いことじゃなかったんだよ

新しいメールから古いメールを選択していくほど

辛かった。



やっぱり君は優しいよ

君のメールアドレスを消すことなんて絶対に出来ない

8月20日

忘れもしない

君は忘れた??

そんなの承知しないから

それに、私は嘘をついた

君からのメールは消してない

データフォルダの中に…  
記録してしまっていたよ

でも、それを見ることなんてない  
今後一切

だから、私の中では消したに等しい

こんなの言い訳かなあ

あの時は

人生で一番楽しかった

8月20日

あの瞬間が

ずっと続いてたらよかったのに

あの日は  
私しか見てなかった



素直になつたらダメですか。（前書き）

この女は、どこまでいったら気が済むのでしょうか。

素直になつたらダメですか。

すごく嬉しかった!!

やっと!!

やっとだよ!!

年が明けてから、

やっと君に会えた!!

ホントに嬉しかった

…けど、ちょっとだけ悲しかった。

学校の校門の前で細い路地から出てきた君とばったり会ったとき

私はドキドキした

すぐに目をそらしてしまった。

君の方が、下を向くのは早かった。

何だか、その場にいるのが堪えられなくて、

雪道を走って来てしまった。

君は、めっちゃめっちゃにゆっくりした速度で歩きはじめた。

君と同じクラスのサッカー部の人、私の目の前で、君に挨拶したとき

すごくまずいと思った。

…でも、何とか先に学校に着けた。

君に初めて避けられた日のことは、今でも鮮明に覚えてる。



私は深く傷ついた。

私は、今日避けてしまった。

私のことが大嫌いな君は、傷つくことなんて無いんだと思う。

でも、

傷ついたのかな？？

本当はおはようって言いたいんだよ

友達みたいに話したいんだよ

でも、  
どうやらそれは無理みたいだから

自分の思いを素直に伝えるなんてこと、  
もう二度としない。

今日、君と会うことができてすごく嬉しかった。

でも、すごく悲しかった。

勝手に傷ついてごめんなさい。

また明日も会えるかな

2月14日（前書き）

飛躍しすぎました。

2月14日

私はとにかくTが好きでした。

Tを見ているだけで、

Tの話をしているだけで、

私は何もいらなくらいに幸せな気持ちになりました。

しかし、

R

あの女が、Tの名前を口にだす度に、

Tの話をする度に

私は胸が張り裂けそうになる

私は激しい怒りに燃え、どうしようもなくなってしまっ

Tは誰のものでもないのに

ただただ、RがTに何かしでかさないかを本気で心配しました。

Nは、笑顔で

「大丈夫だって！！騒いでんのも今だけだから！！あの二人が付き合うなんて有り得ないし！！」

ひたすらに私を慰めてくれました。

私は、どれほどRを憎く思ったとしても、

Tがどれほど愛しかったとしても、

何も出来ませんでした。

Tの近くにいと、ドキドキして

自分が自分じゃないみたいだ

すごく呼吸がしにくくなる

私は、君の前じゃ無力だ。

君は、何もせずして、私から全てを奪ってしまふ  
喜怒哀楽全て君次第になつてしまふ

それに、君にはそんな自覚はない…

私はNに言いました。

このままじゃさすがにまずいと、焦る気持ちがあつたのだと思いま

す。

2月14日、Tくんにチョコレートをあげたい

そんなの、生まれて初めてでした。

家族以外の異性に、プレゼントなどしたことがありませんでした。

まして…

バレンタインデー



その時の私には現実味が感じられませんでしたか…

うん、分かった!!

協力するよ!! あんたの言われた通りに行動してあげる!!  
バレンタインデーかー、いいなー、あたしも好きな人欲しいよー

Nは、いつも私を元気づけてくれました。  
きっと、NのおかげでこんなにもTに恋愛感情を抱いた、今ではそう思います。

Nは、TのペアのAと同じクラスでした。  
そして、唯一女子の中でAとまともに会話できる人でした。

だからNに言った…

否定は出来ませんでした。私はNを利用しようとしたのか??

…ただ、一緒に騒げる相手が欲しかっただけなのかも知れません。

Nは、Aに頼んでTを呼び出すことを提案しました。  
私もそれがいいと思いました。

Tを呼び出して、私が渡す。

地に足がつかないような、夢のような感覚でした。

2月13日

私はその年、今まで生きて来た中で一番多く焼菓子を焼きました。

フォンダンシヨコラ

中に熱いチョコレートが入っている、シヨコラケーキのようなものです。

部活の先輩、

クラスの友人、

塾の先生、

部活の女子、

顧問、

そしてT

40個はくだらなかつたと思います。

その時期はテスト前だというのに、私はかつてなく働きました。

私はNとたくさんメールをしました。

明日のことをたくさん

2月14日

その日は土曜日で

土曜日も午前中授業があつて

よく晴れた寒い日でした。

私たちは、部活前に先輩にチョコレートを渡すため、学校中を走り回りました。

Nが、部活が始まる前、私に手紙を渡してきました。

## 現状報告

やあ！今日のことなんだけど、ちゃんと頼んでおいたよ！協力してくれって

だけど渡すのがあんただってことばれちゃったんだ…。

Aくん、ふたりのことお似合いだって言ってたよ

で、部活終わってから“例の場所”で待っててくれるみたい。

Aくんも見に行くようなこと言ってたけど…（笑）

でも渡すときは二人きりにするから！

こんなんでいいかな？

くどいようだけど昨日メールで言ったことをもっかい言っね。

めっちゃ緊張すると思うけど、一言二言はなんか言って、落ち着いて渡せ！

「来てくれてありがとうございます。これよかったら食べてください。」とか言ってね、一番いけないのは黙って渡す。投げやりになること。

自分のことだけで精一杯になっちゃうと思うけど、相手の気持ちも考えてね。

あんたなら大丈夫、できるよ！  
ぐっどらっく

手紙を部活中、読んで

私は泣きそうになりました。

ありがとう、N。

本当に私は…恵まれていたんだと思います。

部活は、男子の方が早く終わってしまいました。

私たちは…

片付けをし、先輩が帰るまで待っていなければならない

ただ、時間だけが過ぎていきました。

AとTは体育館を去りました。

私は、一人で終わった気になっていました。

先輩がかえり、

部員たちを先に帰らせ、同じ帰り道の部員を振り切り、  
それでもNと私に一人、Tと同じクラスのBがついてきてしまいま  
した。

Bは何も知らない。

下駄箱、自転車を二台  
AとTが止めて待っていました。

でも…Bがいる



私は二人の前を素通りしてしまいました。  
Aが私を振り返って見る。Tも。

私は、もうだめだった。

私たちは、AとTに見えない下駄箱の裏に行きました。

というか、私が行ってしまいました。

Nが、

もういいよ、しかたない！！Bいるけど分かってくれから！！渡  
せ！！

と言いました。

予定では余裕でした。

でも

予定では。

涙が溢れて

止まらない

何で、何が悲しいのかも分かりませんでした。が、

大粒の涙がただひたすら流れつづけました

Bは、動揺しました。

どうしたの?!.....あ!!

Bは悟りました。

あたしもしかしてすごい空気読めなかった?!

ごめん.....

...え、Aくん??

私は首を振りました。

…Tくんか…ごめん…

Nは、私をせかしました。

ねえ、待たしてるよ！！  
渡すなら今しかないよ！！

私は出来ない、Nに首を振りました。  
実際出来たとしても、泣いてちゃTもいい気がしなかったと思います。

無理なの？！……

……あたしが渡して来るか？？

私は、Nに頼んでしまいました。

なんて弱いんだ。

私は自分自身が大嫌いでした。

Nは、かわりに渡してくれました。

…渡してきたよ、ありがとうって

…うん、ごめんね、ホントにごめんね、  
ありがとう…

うまくいかなかった

後悔の嵐でした。

三人で下駄箱を出ると、さっきの場所からAとTはいなくなっていました。

空っぽな気分でした。

でも、鼓動が早まる

何だか熱っぽくて気持ちが曇る

変な感覚でした。

NとBに別れを告げました。

すごく謝りました。

家についたら、何だか夢から覚めたような気分

ケータイを覗いたら、

知らないアドレスからメールが来ていました。

Tでした。



思い続けるって結構辛いんです。(前書き)

うーん…特になし!!

思い続けるって結構辛いんです。

十年偉大なり

二十年おそろるべし

三十年にして歴史なる

続けるって大変なんだよ

すごく難しい

君の事、一日に何回考えてると思う???

全然わからないや

でも、寝て起きて、  
君のことがまだ好きだって分かったとき、  
少しだけ安心する。

いつか好きじゃなくなる時がくるんじゃないかって  
怯えている。

だって人の気持ちに永遠なんてないから

ものすごく、狂いそうなくらい君が好きだっと思って思える日

ちょっとしか君に好意を感じない日だってある。

毎日、全部が全部同じ「好き」じゃないんだよ

どれだけ長い間、どれだけ強く思い続けたとしても、  
いつか終わりはやってくる。

その日まで、私は君を好きで居続けます。

好きです。

好きで居続けるのって、すごく大変なんです。

君には分かるかな

有頂天（前書き）

まさには有頂天

この女の人生のピーク

有頂天

知らないアドレスからメールが来ていました。

Tからでした

私は…紅潮しました。

チョコレートの中に忍ばせていた私のメールアドレスに…ちゃんと返してくれた

私はその嬉しさに有頂天になりました。

Tです。

チョコありがとう、美味しかった。

明日も部活、お互い頑張ろう

私はNにメールしました

Tくんからメール来てる…!!

返信はすぐに来ました。

マジで?!返してくれたんだ、優しい!!  
とりあえず、待っててくれたこと礼言つとけ!!

私は、すぐにNに言われた通りに返信をしました。

こっちこそありがとう、メールしてくれてすごいうれしい  
てゆーか、めっちゃ待たせてごめんなさい

返信はすぐに来ました

全然待ってない、大丈夫

夢見心地でした。私が、あの大好きなTとメールしているなんて

私はNにメールしました。

Tくん全然待ってないと言ってくれた…  
絶対待ったよね…

N、ホントにありがとう

Nはすぐに返信してくれました。

優しいっ!!



よかったよかった、あたしもうれしいよ。

何回か、TとNにメールしました。  
すぐに時間が過ぎて行った気がしました。

テスト近いけど勉強してる??

してない。まだ大丈夫

そっか。私もしてないや  
数学のメネラウスの定理ってわかる??

わかんない  
オレ数学の時間寝てるから

ホントに?!数学怖くて寝れないや

行きたい大学とかあるの??進路希望みたいな紙出さなきゃいけないよね

あー、そんなのあったなー  
オレはS大行きたいかな

すごい、ちゃんと決めてるんだねー  
私何にも決めてない

.....

何でこんなに初めてメールした人に勉強の話ばかり振ったのか...

しかも、テスト前に...

私は熱っぽくなっていました。  
正常な判断が出来ていなかったと思います。

今日はありがとう、明日も部活あるからもう寝ます。  
またね

Tがそういつて、メールのやり取りは終わりました。

夢のようだった

何だか空っぽになった感じがしました。

その後、私はNにメールしました

Tくんとメールしてて、夜遅いからブチられちゃった  
またねだつて。

今日はホントにホントにありがとう

Nからの返信

あらら

まあ、よかったじゃん？？

直接渡せなかったけど。

またなんかあったら言うてよ。

うん、また頼るね

とにかくありがとう

その日の夜は、目が信じられないくらいに冴えました。

でも、頭はなぜかボーッとして

具合が悪いわけじゃないのに

何も変わらない夜のはずでしたが

2月14日の夜

一番青春を感じた時間のうちの一つと言えました。

目は冴えていたのに、なぜかすぐに眠りに落ちることが出来ました。

これから…どうなるんだろうっな

2月15日（前書き）

有頂天のそれから。

この女はどうなるのでしょうか。

2月15日

朝、ケータイのアラームが鳴る前に目が覚めて、

私はケータイを覗きました。

…メールの履歴

私は本当にTとメールをしていたようでした。

夢じゃなかったという安心感と同時に、

直接渡せなかったという後悔

というか私は何て恥ずかしいぶっ飛んだことをしてしまったんだろう  
うと羞恥心に駆られ

これからどうすればよいのだろうと、不安になりました。

それでも何だかドキドキして、

私は普通じゃなかった

学校に着きました。

いつもと変わらない

…よかった



朝のホームルームが終わり、私は隣の席で、同じ部活のGに話し掛けられました。

ねえ、聞きたいことがあるんだけど

Gは半笑いで私に言いました。

美しい顔立ちのGの美しくない笑顔

Gがこういう顔をして

聞きたいことがあるんだけど  
だなんて

…やっぱり広まったのか。

私は他人に言ったつもりはないし、Tに口止めしてないから…  
ああやっぱりTが言ったんだ。  
そう思ってた私は

…ああうん、隣のクラスの人の事でしょ

と言いました。

Tは私の隣のクラスでした。

Gは満足げに笑いました。

ああホントだったんだ！あたしずっとあんたはSくん一筋だと思ってたからさ

あはは…うん、そうだね

Gは、私がSを好きだった当時、相談していました。

でも、結局Sに対して何も出来ず、

Tを好きになったときも軽いと思われたくない、今まで相談してきたのに申し訳ないと思って、私はGには何も言いませんでした。

言ってくればよかったのにー

ごめん

…言えるわけがありませんでした。

ちなみにKちゃんも知ってるよ

Kは同じクラスで部活も同じ、とても噂好きですがいい人でした。

この人は……！！まさかKにまで言ったのか

Kは確かにいい人だ。分かってはいましたが……

私は軽く自暴自棄になりました。

ああ、そんな驚かないで。Kちゃんは絶対言ったりしないから

Gは半笑いを辞め、いつもの調子で会話をしていました。

でもねーすごいことしたよねーなかなか

私は覚悟を決めました。

絶対ダメだろうと思いましたが。

誰から聞いたの？！

Gは一瞬固まりました

…んー、誰だっけな、忘れちゃったな。

絶対隠している。

私は一瞬で悟りました。

私もなめられたものだな。

でも、私には深く追及するほどの勇氣など存在せず、

…まあ、だいたい出所は予想がついたので、それ以上に聞こうとは思いませんでした。

と思った矢先

Gは口を開きました。

私とKちゃんは、その人から聞いた後、Mくんに聞いたの

…え

まさかの人物名に驚きました。

M

同じ部活の、やたらになれなれしい男子でした。

Mくん?!何で

Mくんは誰に聞いたの

Gは答えてくれました

本人から直接らしいよ。

あんたからチヨコ渡されたってTから言われたんだけどホントに？  
！って

あたしとKちゃん知らなかったから驚いた

今思えば、前後で会話が矛盾していましたが、動揺していた私にそんなことは判断出来ませんでした。

Mくん…絶対人に言うじゃん

てゆーかTくんも言ってる時点でアウトだよ……

ああ終わった、もうだめだ。

心の底からそう思い、私は口にも出していました。

Gは、

Mくんにはちゃんと口止めしといたから、言わないでって  
だから大丈夫だよ！！

そんなに簡単に信じて良いものなのでしょうか。  
私は不安で不安で仕方ありませんでした。

知らぬ間に授業開始時刻になり、時刻が始まりました。

私は自己暗示をかけました。

…そういう噂ほどよく広まるんだ

人の噂も79日っていうじゃないか。

それに、目立たない私の色恋沙汰に興味を示す他人などいない

大丈夫、大丈夫

それから、移動教室で校内を移動しました。

Tと、

メールしてから初めてすれ違いました。

階段で、Tはクラスの友達と移動教室から戻って来るところでした。

私は、何とか挨拶をしようと試みました

…あ

息を吸い込んだ時

Tは私から目を反らして  
下を向いてしまいました

……



私は挨拶をしませんでした。

Ｔに避けられました。

軽くショックを受けました。

初めて避けられた

気のせいだと思いたい

でも…あれは絶対避けた

避けられなかったところで、私はＴに声をかけるだなんて出来ませんでした。

… ああ、ホントにあったことなんだ。

2月14日の出来事が、改めて現実味を増してきて、  
私は何だか具合が悪くなりました。

それまで私のことなど知らなかった丁が、

私と普通にすれ違っていた丁が、

夏休みには業務連絡ながら普通に会話できた丁が、

私を意識的に避けるなんて

2月15日

私はTに初めて避けられました。

あの時の緊張感、Tの表示、ズキズキとした心の痛み

私は忘れることが出来ません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0812ba/>

---

一生届くことのない手紙

2012年1月8日23時47分発行